全国学力・学習状況調査　稲築西義務教育学校学校（前期）

1　調査目的等

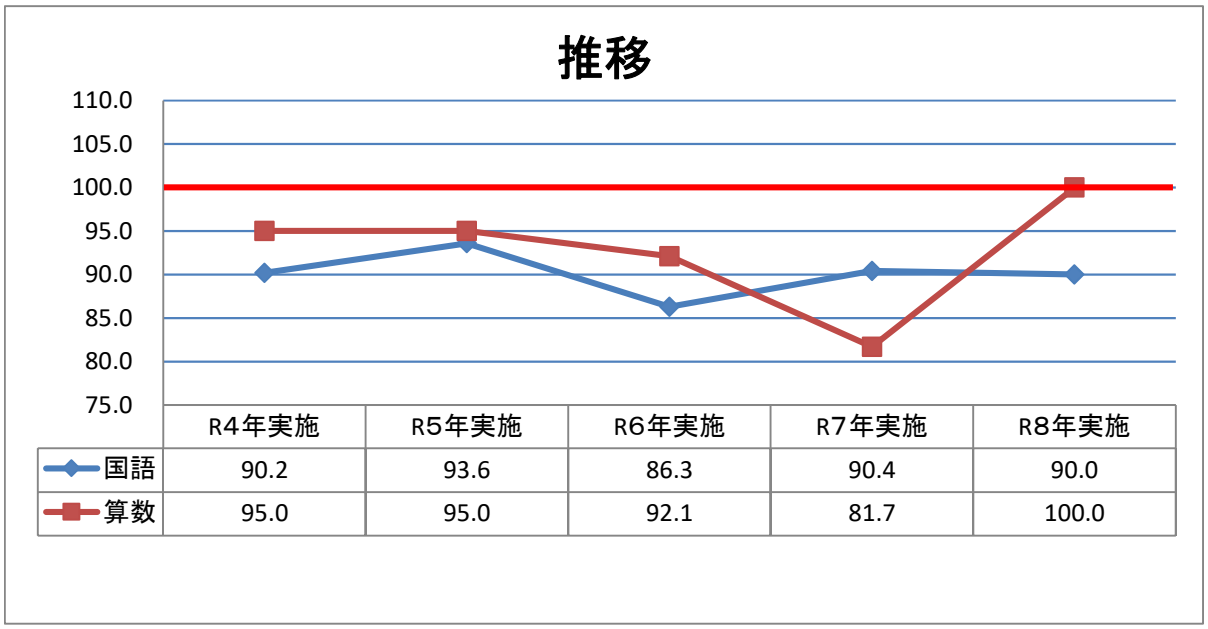
・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2　学校における学力向上に向けての取組

〇国語科・算数科とも、自分の考えを書いたり交流したりする活動を位置づける際には「なぜ」「どうして」「どのように」「どうすれば」などの児童が思考を働かせる観点を明確にした発問を意図的に行い、理由や根拠とともに伝えるようにする。また、学習の振り返りでは、「分かったこと」「できるようになったこと」「わからなかったこと」「もっと知りたいこと」などを具体的に書かせるようにする。
〇算数科では、知識・技能の定着を図るために、毎時間のまとめでは、練習問題やタブドリを活用した問題に取り組ませ、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行う。また、各学年各単元の終末における習熟段階で指導方法工夫改善教員等を活用した個別指導を充実させる。
〇基礎基本の定着を図るために、国語科と算数科において、単元テストにおいて、80点以上の通過率80%以上を達成できるようにしていく。
〇CD層の児童には、朝の活動の時間を活用して読解力や計算力の向上を図る個別の取り組みを行っていく。
〇家庭学習（特に週末課題）では、タブドリ等を活用し個に応じた課題に取り組ませる。

3　調査結果(全国の平均正答数を100としたときの標準化得点)

	国　語	算　数
本校	90	100.0
嘉麻市	92.4	100
全国	100	100



	R4年実施	R5年実施	R6年実施	R7年実施	R8年実施
国語	90.2	93.6	86.3	90.4	90.0
算数	95.0	95.0	92.1	81.7	100.0

4　各学校における分析

〇国語科では、「書く活動」を位置づけ、「なぜ」「どうして」「どのように」「どうすれば」などの児童が思考を働かせる観点を明確にした発問を行い、自分の考えを書く時間を確保したことで、目的に応じて詳しく書いたり、文章と図表などを結び付けて書いたりすることが、「書く」能力の育成につながったと考えられる。CD層の児童は文章全体の構成や内容を捉え、必要な情報を関連付けて読むことに課題が見られた。
〇算数科は、指標としている全国平均に達することができた。児童は、朝の活動の時間を活用して読解力や計算力の向上を図る個別の取組や、家庭学習（特に週末課題）では、タブドリ等を活用し個に応じた課題に取り組んできた。
〇算数科では、知識・技能の定着を図るために、毎時間のまとめで練習問題やタブドリを活用した問題に取り組んだり、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行ったりしたことで、全国の平均正答率に近づき、思考力・判断力・表現力にも伸びが見られた。CD層の児童は、表やグラフなどの情報を読み取り判断することや、数量の関係を多面的にとらえることに課題が見られた。
※各学力層合計（全国との差）
　国語：A層－18.1p　B層＋15.6p　C層－3.7p　D層＋6.3p
　算数：A層－11.4p　B層＋10.7p　C層＋6.4p　D層－5.5p

5　各学校における今後の取組

〇国語科では、自分の考えを書くことへの苦手意識を払拭することができるように、説明文や物語文などから分かったことや考えたことなどについて、文（文章）の書き方の枠組みをもとに書いたり、自他の考えの交流をもとに付加・修正したりする活動を設定する。また、書く活動を設定する際には、思考力・判断力・表現力を育成するために、条件を設定して書くようにする。
〇国語科では、文章全体の構成や内容を捉え、必要な情報を関連付けて読むことができるように、接続詞や文末表現に着目して大切なところに線をひいたり、文章中の言葉を抜き出して図に整理したりする活動を設定する。また、長文を読む力や意欲を育てるために、漢字や語句の確実な習得を図る。
〇算数科では、思考力・判断力・表現力を育むために、自分の考えの理由や根拠を図や式、言葉と関連させながら書く活動を設定し、自分の考えを友達と交流しながら、自他の考えを比較したり自分の考えを付加・修正したりできるようにする。
〇算数科では、基礎基本の定着を図るために、毎時間の終末段階で練習問題やタブドリに取り組む。また、形成的評価を重視した児童の学びの見とりを丁寧に行うことで、単元末における習熟段階で指導方法工夫改善教員等を活用した個別指導を充実させる。
〇CD層の児童には、基礎基本の定着を図るために、朝の活動で「10ミニ＋α」やタブドリ等に取り組み、指導方法工夫改善教員や専科教員が個別の指導を繰り返し行う。また、家庭学習でも、タブドリを活用して個に応じた課題（既習内容を含む）に繰り返し取り組む。

6　嘉麻市教育委員会としての今後の取組

〇分かる授業づくりのために、単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、授業改善を図って いく。
〇子どもの思考活動の充実を図るために、一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。
〇家庭学習の習慣化を推進するために、「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。
〇上記の３点について、嘉麻市学力向上検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、 充実を図っていく。